

「県立高等学校教育課題研究指定校事業」～未来を担う人材の育成を目指して～

7月13日（金）に「公民科による主権者教育」をテーマとして校内で研究授業を行いました。

1時間目は3年1組の選択倫理の授業において、「地域社会での共生をテーマとした授業 - 私たちが考える理想的な地域のつながりとは -」をテーマとして、少子高齢社会における新しい人々のつながりの在り方を生徒が考えるという内容でした。当日の授業では前の時間までにグループで考えた「年齢を問わず、気軽になるべく多くの人に参加でき、自分たちも参加したくなるような住民同士の助け合い」について、グループごとに発表をしました。そして、ゲスト講師としてお招きした知立市役所福祉課の佐藤浩二さんと知立市社会福祉協議会の中村八千代さんに、生徒の発表に対して評価をしていただいた後に、生徒との対話を行いました。その中で、ゲスト講師の方々に生徒の提案の問題点や疑問点を指摘していただき、それに対し生徒が反論するという形で進められました。生徒は、自分たちの考えと現実の社会とのギャップに戸惑いながらも、一生懸命反論していました。ゲスト講師の方から、「アイデアはいろいろ出るが、それを自分でやってみようと一歩踏み出すためにはどうすればいいのか」という問いかけがあり、助け合いのための一歩を踏み出すことの難しさについて実感することができたのではないかと思います。

2時間目は3年2組の現代社会の授業において、「主権者として選挙権の行使の意味を捉える授業 - 18歳に選挙権を与えるのは適切なのか -」をテーマとして、選挙の意義や重要性を生徒自らが考えるという内容でした。生徒に対して、様々なシチュエーションを提示し「あなたは選挙に行きますか」という問が投げかけられました。そして、グループで意見交換をして個人の考えを共有しました。その後、「もし、選挙の争点が『若者税の創設』だったらどうか」という問いを設定して生徒に意思決定を迫り、選挙権を行使することがどのような意義をもつのかを考えました。生徒の中には「世間のことを自分と結びつけて考えられない」と感じる者もあり、政治の動きを自分事として捉えるようにするためには生徒個人がどのような資質・能力を身に付けなければならないかを明確にする必要があると感じました。

研究授業の後には、岡山大学大学院教授の桑原敏典先生を助言者に迎え、地理歴史・公民科の教員で研究協議を行いました。その中で、桑原先生から「主権者教育」とは何か特別なことをやるのではなく、主権者になるための教育を行うことであり、主権者を育てるために必要なことを何かを捉えた後に、今行っている教育を主権者を育成するという視点で見直すことが必要だと助言がありました。

桑原先生の御助言をもとにして、本校の地理歴史・公民科では主権者を育成するためのさらなる授業改善に取り組んでいきます。そして、これまでの2年間の成果を含めて、今年11月に行われる予定の「公民科による主権者教育」研究発表会に向けて、研究を進めていきます。

